

## 第18回独立行政法人農林漁業信用基金漁業信用保険業務運営委員会 議事概要

### 1 日時及び場所

- (1) 日時 令和6年9月30日(月) 15時00分～17時00分
- (2) 場所 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー28階  
独立行政法人 農林漁業信用基金 大会議室

### 2 出席者

- (1) 運営委員(出資者・学識経験者別 五十音順)  
出資者:川田委員、佐藤委員、高屋委員、田中委員、正木委員  
学識経験者:山本委員長、伊藤委員、菅野委員、深川委員、宮本委員
- (2) 信用基金  
牧元理事長、北副理事長、山根理事、鹿田理事
- (3) オブザーバー(主務省)  
財務省大臣官房政策金融課 荻島課長補佐  
水産庁漁政部水産経営課 永田課長、溝部課長補佐、崎野係員

### 3 提出議案

- (1) 報告事項
  - ①令和5年度の業務の実績に関する評価について
  - ②令和5年度の決算について
  - ③令和5年度の漁業信用保険業務の概況について
- (2) 情報提供事項
  - ①水産金融施策について
  - ②委員からの情報提供
- (3) その他

### 4 議事経過の概要及びその結果

- 3(1)について信用基金から報告を行った。
- 3(2)について水産庁及び各運営委員からの情報提供が行われた。  
運営委員等からの主な発言等は以下のとおり。

#### 【発言等】

- (1) 報告事項
  - ①令和5年度の業務の実績に関する評価について
    - (6年度の年度計画において明確にするとされている引受推進に係る基金の対応方針等について)基金内部の取組に係るものであり、関係機関に周知することは考えていないとのことだが、基金協会における保証推進等の足掛かりにもなるため、できれば周知していただきたい。
  - ②令和5年度の決算について  
特になし
- (2) 情報提供事項
  - ①水産金融施策について
    - 水産庁水産経営課より、令和7年度予算概算要求の概要、ア号資金の貸付状況、登録免許税の優遇措置の利用促進、保証の推進について情報提供があった。
  - ②委員からの情報提供
    - JFマリンバンクは本年度より3か年の中期戦略に基づく取組を開始しており、長期資金新規実行額や経営改善制度認定漁業者数、領域拡大アプローチ先数の三つの目標に沿って、漁業者に寄り添った金融課題の解決に取り組んでいる。

- 黒潮大蛇行について半年前は改善の兆しがあったものの、現在は一進一退の状況。コウナゴ、サバ、イワシ、海藻、貝類が不漁、一方でカツオやキハダは好漁で、ハマチ、カンパチが定置で漁獲されている。タイ類養殖について、単価は安定しているが餌の高騰等により収支面では厳しい。養殖クロマグロについては高値で販売されており、幼魚のヨコワの確保も良好。近代化資金は、リース事業案件の減少の影響を受けている。基金の助成金を活用して弁護士と契約し督促等に取り組んでおり、延滞が解消された案件もある。
- 赤潮被害に対しての県・市の補正予算が措置される見込みで、今後、融資案件の対応もあると思われる。保証推進に関し、養殖業については陸上養殖も含め国の成長産業化の施策推進による投資が期待できることから、地銀との意見交換を始めている。また、水産加工業についても業界団体との意見交換を始めたところ。
- 昨年度の大西洋クロマグロ操業は、魚価が低下したものの収益は確保できている。国内の冷凍倉庫が満杯で運搬船が洋上で待機する状況であり、在庫過多の状況が継続している。
- 昨年度は、ALPS処理水、高海水温、低気圧の断続的襲来など厳しい状況であったが、運転資金について県の補助制度が措置され、融資・保証も連動して実行し、災害に伴うものではあるが養殖業関係の運転資金や近代化の設備資金への保証が増加した。ギンザケ養殖は、高水温の影響で成育が早まり、出荷時期が集中して単価が下落するなど厳しい状況。県が魚種転換等への支援を行う予定であり、融資・保証の需要も見込まれる。
- 海洋環境変化の影響等により、秋サケが壊滅的、天然昆布も採れず、ホタテの幼生も激減と厳しい状況。サバやブリなどなじみのなかった魚種が漁獲されるようになったが、まだ流通が対応できていない。新たな設備投資がし難い状況のなか、今般の近代化資金の保険料率及び保証料率の引き下げはありがたい。
- 昨年度決算について、信用金庫全体の当期純利益は2割増益。投信解約損益を除いたコア業務純利益でみると微増。経費増・信用コスト増を資金利益の増・株式損益改善により打ち返している。信用保証協会の代位弁済が、2年連続で増加。各種の公的サポートの縮退や物価賃金上昇等が影響したものと考えられる。中小企業の動向調査による業況判断では、最近の動向はマイナス圏内だが大幅改善している。
- 養殖の赤潮被害が度重なっており、自助努力や行政等の支えで経営が維持できている状況。生産再開のための中間育成魚が入手できず、韓国産カンパチ種苗を試した例もあるが、あまり質が良くないようだ。人材の高度化やITでの自動化など先進技術の活用に取り組み、なんとか前向きな方向で頑張っている。
- 沖合底曳は多種類の魚種を漁獲するので本来は安定的な漁業だが、海洋環境の変化の影響か、最近では漁獲量が低下している。また、人材不足、特に幹部人材の不足で操業の継続が厳しい状況。加工業や仲買人など関係者と知恵を出し合っているが、中小経営体だとリスクを取ることができない場合が多い。リース事業が近年拡充されているが、先を見据えて頑張っている者には金融面での支援もお願いしたい。

(3) その他  
質疑なし

以上